

※個人や企業が特定される部分、業務内容に関わる部分についてはCeFILで一部修正しています。

	ご意見・ご感想	改善指摘
1	職場のなかでも、学生を指導するというスキルが高まったと感じる。学生側からは社会に出る前に企業の内情を知るといふ非常に有益な経験ができたのではないかと考えています。今後も産学連携をさらに強化し、高い意欲と即戦力になる学生が多く社会に出て行けるよう期待しています。	
2	職場内の若手の育成にも効果がある。(若手の指導力育成、刺激を与えるなど)	
3	メンターは初めてインターン生を受け持つことになり、よい経験になったといっています。	
4	本年度インターン生は、2名当部へ研修にきていただきました。このくらいの研修期間がありますと、一定の仕事を与えることができると思います。昨今新人があまり配属されないため、若手の部下指導機会が減っていることも事実です。短期ではありますが社内の若手の育成にもつながると思います。	
5	・初めての試みでしたが、インターン制度をより発展させていくことができると思いました。 ・自分の学生に対するイメージがあり、また実業務で戦力として活躍してもらうのに、どういった指導方法が良いのか、とても悩むところでした。改めて、指導の難しさを感じましたが、私にとっては良い経験となりました。	
6	インターン生の受け入れにあたっては歓送迎会を開き、ざっくばらんに話し合うことで、グループ内のコミュニケーションの円滑化が図れたと思います。また、若い人がIT業界に対してどのようなイメージを持っているのか、大学院でどのような勉強や実習を行っているのか知ることができ、勉強になりました。	
7	新人用の作業手順書があればよかったなど、普段業務を遂行している中で、我々では気づけないことをインターンシップ生から学ぶこともあった。今後も積極的にインターンシップ制度を適用した方がよいと感じた。	
8	学生本人と受け入れ側の双方にとって、大変有意義なプログラムである。	
9	6週間という期間は、実業務を体験するという意味では妥当な期間だと考えます。今回のインターン生は、プログラム等の基本スキルが高く、業務内容とスキルのギャップが小さかったため、効果的なOJTが出来たと考えています。インターン生にとっても満足度のいく結果であれば幸いです。	
10	インターンシップは教育する場ではなく体験する場と考えたため、製造工程でJava言語等の詳細な内容へは踏み込んで教育していません。その点で学生の満足度が上がったのは受入側として心配した部分です。	
11	インターンシップが社内メンバーへの刺激となった点は前述のとおりですが、職場としては企業側が求める人材像を伝える場でもあり、それを意識したメニューを設けることも必要ではないかと思えます。(例:職場若手との車座、目標とする人物像の意見交換、プレ・ポストアンケートでの成長実感と社会人として必要なスキルの確認、など。)今回、責任ある現場業務を経験できる環境を用意し、実践していただきましたが、職場では言いづらい最終的な感想を収集いただくとよいと思えます。特に、CeFILインターンシップとしては、教員とのつながりもあると思えますので、大学に戻ってからの評価なども今後の参考にできるのではないのでしょうか。	学生の感想、要望のフィードバック
12	インターンシップ生の正直な感想、もっとこういう配慮してほしかったなどの要望をフィードバックして頂きたい。	学生の感想、要望のフィードバック
13	知識・技能の不足とは別に、問題解決戦略の考え方(問題点の列挙・問題点間の依存関係分析・優先度付け・制約条件に基づく取捨選択)や、技術文書のライティング/プレゼンテーション技術(トップダウンの説明構造・要点の絞り方・文脈の首尾一貫性)などが身につけていない点が気になった。大学における専門教育以前に、ロジカルに考えて説明する技能を修得していないと、業務遂行は困難であり、インターンシップにならない。	専門教育以前の基礎的スキルの不足

14	インターンシップで企業での就業体験をすることはよいと思いますが、その前に基礎的なトレーニングは実施しておいてほしいと思います。例えば開発の方法論や開発で通常使うツール(バージョン管理、バグトラッキングシステム等)です。それらの知識を持った上でインターンシップに望めば、実習期間を有効に活用できると思います。	事前知識/基礎的トレーニング不足
15	もう少し期間が長ければ、学生からさらに有用な成果が引き出せたと思います。	受け入れ期間の長期化
16	一か月強の取り組みであったが、受け入れ当初の業務内容説明や、終盤での報告書作成作業などがあり、期間としては短く感じました。 職場としては、担当してもらった作業が次のステータスに進んだ際に、どのようなやりとりがあるか、作業内容がどう活かされるかまで実践体験してほしいと感じており、職場都合であるが、可能ならもう少し長い期間、一緒に作業をできればと思います。	受け入れ期間の長期化
17	インターンシップ期間が短い。本気でインターンシップを行うためには、最低3ヶ月は必要。本気であるなら、今後、配慮を希望する。	受け入れ期間の長期化
18	上記の通り幅広い業務を研修できた。ただし、研修では初期の技術知識の獲得に多少の時間を要するため、2ヶ月弱でも若干期間が短い印象を受けた。	受け入れ期間の長期化
19	製造工程では学生のスキルと実際に職場で求められるスキルにギャップがありました。この点については担当により使用する言語等も違うため学生自身に非があるとは考えていませんが、SEの業務内容の1つである製造(コーディング)を理解し作業を進めていくことは、実質20日程度では難しいと感じました。	受け入れ期間の長期化
20	担当業務については、学生のレベルに応じて準備する必要があるため、事前に準備することが難しいと感じました。	
21	他のインターンシップで同時期に研修している学生がおり、テーマは若干異なりますが、その学生との連携が効果的だったと本人から伺いました。実際、二人で意見交換して理解が深まっている様子でしたので、このような体制のインターンシップも良いのではないかと思います。	
22	インターン生の勤務時間に、インターン生との合意のもとで自由度があると(例えば、10:00-18:30に変更できる)、受け入れ側の受け入れコストが低くなり、インターン生をより受け入れやすくなります。	勤務時間帯の調整
23	面接でTV会議を使う場合には、事前に接続テストをしたい。また利用手順や設定方法についてはあらかじめ学生へも周知して欲しい。(昨年同様、面接当日にTV会議が利用できず、混乱があった)	運営改善
24	今回もマッチングの際の条件としましたが、MS Office(WORD,EXCEL,PowerPoint)を使いこなせることと、WindowsやLinux OSの使用経験、Javaや JavaScriptなど汎用言語での開発経験が基礎スキルとして学生側にあると、業務に入っていくやすいと思います。あと、今回、学生は泊まり込みできているので、食生活やいざというときの緊急連絡体制など、生活上のフォローも考慮した体制があるといいと思いました。	運営改善(実習中の緊急連絡体制)
25	グローバル化に備え、海外インターンシップ生も受け入れたい。	